# 鷹　踊

【所　在　地】薩摩郡薩摩町求名下手（鷹踊保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 36 年８月 16 日

旧暦７月 23 日には，求名下手の南方神社に，太鼓踊などを奉納したが，この鷹踊もその時に踊った。現在は踊る決まった日はない。

踊り手は青壮年たちで，タカという殿様役と，エサシ（餌差し）というその伴人と計 20 人ほどで踊る。タカは紋付羽織に袴，陣笠に白鉢巻，左手に小さい木製の鷹の模型，右手に扇子を持つ。エサシは，単衣のタスキがけに袴，陣笠に鉢巻，右手に餌を差す細い竹棒を持つ。現在は，エサシは女子が踊る。

楽は太鼓と三味線。タカとエサシが各一列になり，並んで踊る。エサシが餌を竹につけて，鷹に食べさせる動作を優雅に踊る。その後，エサシはオケサ節，タカはオハラ節を踊って終る。

鷹踊は県下でもおもに薩摩郡に分布しているもので，格調が高く見ごたえのする芸能であるが求名の下手や狩宿あたりから広がったものらしい。

この踊は一般に昔，上層の武士が行った鷹狩を芸能化したものといわれる。もともとは鷹の餌じきになった動物たちの霊をなぐさめる供養の踊りであったという説もある。